

医療面接の基礎

責任者・コーディネター	人間科学科心理学・行動科学分野 藤澤 美穂 准教授		
担当講座・学科(分野)	人間科学科心理学・行動科学分野		
対象学年	2	区分・時間数 (1コマ2時間換算)	講義 20時間(10コマ)
期間	後期		
単位数	1単位		

・ねらい

【学修方針】

医療の担い手の一員として、患者、その家族、同僚、連携する多種専門職や地域社会との信頼関係を確立するためには、相手のこころや立場、価値観等の理解と尊重が必要となる。本講義では、医療面接に必要な態度と基本的技法を修得するために、前期に学習した心理学、医療における社会・行動科学の学習内容を基礎として、コミュニケーションの基礎、行動科学諸理論を用いたヘルスコミュニケーション、患者の特性に応じた医療面接等について学ぶ。アクティブラーニングを行い、理論の理解を深めることによって医療面接を効果的に行う基礎を身につける。

本科目の学修を通じ、患者中心の医療の実現のために果たす医療面接の役割についての理解を身に付け、実践への土台となることを目指す。また本科目の学修は、3年「チーム医療リテラシー」における知識と態度形成のための基盤となる。

【教育成果】

1. コミュニケーションと医療面接の基礎を学修することで、対人理解・対人援助に関する基本的な知識と態度を習得し、相手の立場に立った援助ができるようになる。
2. 他者との信頼関係や他者配慮的態度について学修することで、チーム医療に寄与できるコミュニケーション能力を身に付け、実践することが出来る。
3. ストレスマネジメント概念を理解することで、自身のメンタルヘルスの保持増進のため必要な行動をとることが出来る。

・学修目標

- 1) 患者・患者家族の心理について理解を深め、患者のナラティブや主体的な意志決定を尊重することができる。
- 2) 医療者と患者・患者家族の関係性が治療や健康行動に及ぼす影響について理解し、説明できる。
- 3) 患者・生活者の心理、立場、環境、状況に配慮し、非言語的コミュニケーションを含めて適切なコミュニケーションを図ることができる。
- 4) 対人関係に関わる心理的要因への理解を深め、患者・生活者の意志決定に寄り添いサポートする必要について理解し、説明できる。
- 5) 患者・患者家族の精神的・身体的・社会的苦痛に配慮し、相手の心情に配慮したコミュニケーションを図ることができる。
- 6) 医療面接に用いられる基本的技術について説明できる。
- 7) カウンセリングに求められる視点を理解し、必要な態度を説明できる。
- 8) ヘルスコミュニケーションについて説明できる。
- 9) 行動科学諸理論をヘルスコミュニケーションへと応用する方法について説明できる。
- 10) 患者の行動変容を継続的に支援する必要性について理解し、説明できる。
- 11) 相手の心理状態を理解し、関わりを調整する必要性について理解し、説明できる。

- 12) ストレスマネジメントとセルフケアの重要性について理解し、説明できる。
- 13) 災害時に薬剤師が果たすべき役割・備えとして、災害時のことについて理解し、説明できる。
- 14) 多職種連携のために必要なコミュニケーションを理解し、説明できる。
- 15) 個々の患者・生活者に寄り添い、身体的、心理的、社会的特徴の把握に努め、その思いを受け止めて患者・生活者を全人的・総合的に理解することができる。

・薬学教育モデル・コア・カリキュラム（令和4年度改訂版）対応項目

B-1-1 薬剤師に求められる倫理観とプロフェッショナリズム、B-1-2 患者中心の医療、B-2-1 対人援助のためのコミュニケーション、B-2-2 多職種連携、B-3-1 地域の保健・医療、F-4-2 地域での公衆衛生、災害対応への貢献、F-5-1 医療・福祉・公衆衛生現場で活躍するための基本姿勢

・学修事項

- (1) 医療における患者の自律尊重
- (2) 他学生との協働やフィードバックを実践する
- (3) 患者・患者家族の心理
- (4) 全人的医療
- (5) 患者のナラティブ
- (6) 守秘義務
- (7) 医療者－患者関係が治療に及ぼす影響
- (8) ヘルスリテラシー、健康行動理論
- (9) 個性や価値観等の多様性・人間性を尊重する意義
- (10) 医療コミュニケーションの技法
- (11) 全人的な評価
- (12) 対人関係に関わる心理的要因
- (13) 他の医療、保健、介護、福祉関係者の職能の理解
- (14) 相手の意見を尊重しつつ自身の考えや感情を適切に伝えるためのコミュニケーション
- (15) 地域の保健・医療に関わる機関・組織
- (16) 地域住民のセルフケアにおける薬剤師の役割
- (17) 災害時の患者・生活者のストレスや変調の理解
- (18) 患者・生活者の生活全般を広く観察し、その人らしい人生を支える医療の観点からその人に薬剤師として何かができるかを常に考える

・この科目を学ぶために関連の強い科目

多職種連携のためのアカデミックリテラシー、心理学、医療のための社会・行動科学

・この科目を学んだ後につなげる科目

チーム医療リテラシー

・講義日程

(矢) 西 106 1-F 講義室

月日	曜日	時限	講座・分野	担当教員	講義内容/到達目標
9/3	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	#1 医療者・患者関係の理解とカウンセリングの基礎

					<p>1. 医療者と患者の信頼関係を築くコミュニケーションについて説明できる。</p> <p>2. 広義／狭義のカウンセリングについて説明できる。</p> <p>3. カウンセリングにおいては、なぜ「クライアント」と称するのかについて、説明できる。</p> <p>4. カウンセリングが成立する条件について説明できる。</p> <p>5. カウンセリングにおける倫理について説明できる。</p> <p>6. カウンセラーの基本的態度とラポールについて、説明できる。</p> <p>【ICT(WebClass)】</p> <p>事前学修：「心理学」の「臨床心理学の基礎」で学んだ内容を復習する。</p> <p>事後学修：WebClassでの確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p>
9/10	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>#2 コミュニケーションの基礎</p> <p>1. コミュニケーションの種類を列挙できる。</p> <p>2. メッセージとメタメッセージについて説明できる。</p> <p>3. コンテントとコンテキストについて説明できる。</p> <p>4. ミスコミュニケーションについて説明できる。</p> <p>5. コミュニケーションの機能と役割について説明できる。</p> <p>6. 自己イメージとコミュニケーションの関連について理解できる。</p> <p>【グループワーク】</p> <p>事前学修：教科書 14～20 ページを読んでおく。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p>
9/17	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>#3 カウンセリングスキル(1)関係づくり</p> <p>1. 自分の話し方と聞き方のくせについて検討できる。</p> <p>2. 言語的・非言語的コミュニケーションについて体験的に理解し、それぞれの意義を説明できる。</p> <p>3. 相手の話を正確に理解できているか、自身の課題をふりかえり述べるができる。</p> <p>【グループワーク】 【CT(WebClass)】</p> <p>事前学修：1・2回目の内容を復習する。</p> <p>事後学修：WebClassの#3ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p>

9/24	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>#4 カウンセリングスキル(2)傾聴</p> <ol style="list-style-type: none"> 傾聴する態度がなぜ必要かを述べることができる。 明確化の技法を用いた応答ができる。 open question と closed question を使い分けすることができる。 <p>【グループワーク】【CT (WebClass)】</p> <p>事前学修：傾聴する態度について教科書 47～52 ページを読んで調べる。</p> <p>事後学修：WebClass の#4 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p>
10/1	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授 香川 由美 助教	<p>#5 カウンセリングスキル(3)受容・共感</p> <ol style="list-style-type: none"> クライアントの感情状態や状況・背景を推測できる。 対話している相手の感情の動きを推測できる。 推測した感情を自然な言葉で相手に返すことができる。 クライアントに共感できる。 <p>【グループワーク、ロールプレイ】【CT (WebClass)】</p> <p>事前学修：共感について教科書 52～56 ページを読んで調べる。</p> <p>事後学修：WebClass の#5 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p>
10/8	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>#6 ヘルスコミュニケーションを理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> カウンセリングに適したポジショニングを説明できる。 ヘルスコミュニケーションにおける留意点を述べるができる。 意思決定支援について説明できる。 <p>事前学修：「行動科学」の「ヘルスリテラシーとヘルスコミュニケーション」で学んだ内容を確認する。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p>
10/22	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	香川 由美 助教	<p>#7 ヘルスコミュニケーションへの行動科学諸理論の応用</p> <ol style="list-style-type: none"> 解釈モデルについて説明できる LEARN Model について説明できる。 Porter の態度類型について説明できる。 <p>事前学修：これまでの講義資料を用いて行動科学に関する諸理論を確認する。</p> <p>事後学修：講義資料を復習する。</p>

10/29	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>#8 患者・家族の心理・社会的背景に配慮した関わり</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生物-心理-社会モデルでのクライアントの理解について、説明できる。 2. クライアントの主訴に関連する情報として、何を聞く必要があるか、説明できる。 3. ジェノグラムを記載できる。 <p>【双方向授業】【ICT(WebClass)】</p> <p>事前学修：教科書 65～75 ページを読んで、面接で聞き出すべきことについてまとめておく。</p> <p>事後学修：WebClass の#8 ワークに取り組む。講義資料を復習する。</p> <p>形成的評価：WebClass による「理解度チェック」に取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p>
11/5	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>#9 トラウマティックストレスの理解とストレスマネジメント</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ストレスマネジメントの重要性を理解し、ポイントを挙げるができる。 2. 災害等のトラウマティックな出来事後のストレス反応と悲嘆 (grief) について、説明できる 3. 心理教育の効果と重要性について、説明できる。 4. 惨事ストレスを理解し、支援者のストレスケアのポイントを挙げることができる。 <p>【ICT(Mentimeter,WebClass)】</p> <p>事前学修：「心理学」の「ストレスの心理学」で学んだ内容を復習する。災害時における薬剤師の活動について、インターネットで調べる。</p> <p>事後学修：WebClass での確認テストに取り組み、結果のフィードバックを受ける。</p>
11/12	水	1	人間科学科心理学・行動科学分野	藤澤 美穂 准教授	<p>#10 医療面接のまとめ、多職種連携における職種間コミュニケーション</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 医療面接の役割について説明できる。 2. 医療面接のステップを説明できる。 3. クライアントからの質問に対し、その意図や背景を考慮した応答をすることができる。

					<p>4. 多職種連携をおこなう上で必要となる職種間コミュニケーションの要点を述べることができる。</p> <p>【双方向授業】【ICT(WebClass)】</p> <p>事前学修：教科書 84～89 ページを読んで、面接で生じる問題についてまとめる。これまでの講義内容を振り返る。</p> <p>事後学修：WebClass の#10 ワークに取り組む。患者中心の医療の実現のために果たす医療面接の役割について理解する。</p>
--	--	--	--	--	---

・ディプロマポリシーとこの科目の関連

1. 薬剤師として医療に携わる職業であることを理解し、高い倫理観と豊かな人間性、及び社会の変化に柔軟に対応できる能力を有しているもの。	○
2. 地域における人々の健康に関心をもち、多様な価値観に配慮し、献身的な態度で適切な医療の提供と健康維持・増進のサポートに寄与できるもの。	◎
3. チーム医療に積極的に参画し、他職種の相互の尊重と理解のもとに総合的な視点をもってファーマシューティカルケアを実践する能力を有するもの。	○
4. 国際的な視野を備え、医療分野の情報・科学技術を活用し、薬学・医療の進歩に資する総合的な素養と能力を有するもの。	

・評価事項とその方法

総括評価：後期試験成績を 70%、ワーク（課題）への取り組みと提出物を 20%、確認テスト（1 回目、9 回目）の成績を 10%として評価する。後期試験は MCQ：多肢選択式問題と論述問題を出題する。ワーク（課題）への取り組みは、提出（入力）された回答内容を対象とし、評価については初回講義で示す「ワーク（課題）評価基準」に従い採点する。

形成的評価：8 回目の講義にて WebClass より「理解度チェック」を実施し、理解度・到達度を確認する。理解度チェックの結果は WebClass からフィードバックする。理解度チェックの結果は成績には反映しない。

学修事項	DP	中間試験	レポート	確認テスト	定期試験	発表	その他	合計
1、6、18	1			5	20		ワーク類 5	30
3～5、 7～11、 12、14、 16、17	2			5	40		ワーク類 10	55
2、13、 15	3				10		ワーク類 5	15
合計				10	70		20	100

・教科書・参考書等（教：教科書 参：参考書 推：推薦図書）

	書籍名	著者名	発行所	発行年
教	はじめての医療面接 コミュニケーション技法とその学び方	斎藤 清二	医学書院	2000
参	臨床倫理の考え方と実践 医療・ケアチームのための事例検討法	清水哲郎・会田薫子・田代志門 [編]	東京大学出版会	2022

・特記事項・その他

【講義内容関連事項】

本教科では、一般的な講義に加えてアクティブラーニングを行う。アクティブラーニングは感染予防を徹底して実施し、設定した課題にグループワーク、ペアワーク、ロールプレイ等で取り組むが、状況に応じて方法を適宜変更する。また、課題については講義時間内にまとめを作成し、当日中にWebClassに提出することを求める。課題についてのフィードバックは内容に応じて講義内で適宜実施する。

WebClassでの確認テストを実施する回を設定する。結果と解答はWebClassにてフィードバックする。

講義時間中に、各自のデバイスから参加できるリアルタイムフィードバックツールを用いて他学生の考えを確認、共有する。Mentimeter等を使用する予定のため、スマートフォン、タブレット、PCのいずれでも参加可能である。

【事前事後学修の具体的内容及び時間】

講義については、シラバスに記載されている講義内容／到達目標を確認し、指定された事前学修課題、及び教科書該当箇所を読み予習をおこなった上で臨むこと。講義中、事前学修内容をWebClassに入力する時間を設ける。事後学修については毎回配布される講義資料と教科書等を用いておこなうこと。

各回講義に対する事前学修の時間は30分間を要する。各回講義に対する事後学修の時間は60分間を要する。定期試験前には10時間の総復習の時間を確保する必要がある。

【事前学修・事後学修のポイント】

事前学修：教科書を中心に予習をすること。参考書、その他の資料に基づいた学修も推奨する。

事後学修：わからなかった内容は、講義にて示した教科書の該当箇所を確認し理解を深めること。

【試験や課題に対するフィードバック】

学生からの授業に対する意見や質問については、WebClassのメッセージから随時受け付ける。授業内容に関する質問・要望は、翌回の講義にて追加説明をおこなう。

定期試験後にフィードバックとしてWebClassを通じた解説もしくは補講を実施する。

当該科目に関連する実務経験の有無 有

保健・医療・福祉臨床現場での実務経験をもつ公認心理師・臨床心理士有資格教員が、実践例に基づきながら講義をおこなう回が含まれる。

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
講義	ノート型PC (MacBook Air MD711J/A)	1	講義資料の提示

講義	ノート型 PC (Panasonic CF-SV Let's note)	1	講義資料の提示
講義	プロジェクター	1	講義資料・教材の提示
講義	DVD(BR)プレーヤー	1	教材の提示
講義	書画カメラ	1	教材の提示
講義	デスクトップ PC (iMac (Retina 5K, 27-inch, 2017))	1	講義資料の作成
講義	ノート型 PC (NEC LAVIE DESKTOP-D0QMI07)	1	講義資料の作成